

えられる。

② いじめの構造を理解する（学級活動）

いじめとはどのようなものを理解できるようにするために、いじめ集団の四層構造（以下「四層構造」という。）について考える学習を取り入れる。四層構造とは、加害者、被害者、観衆、傍観者のことである。それぞれの立場の思い、加害者がいじめをしやすくなる要因などの話し合いを通して、いじめ問題を解決するための課題に気付かせるようにする。

(2) ユニット2

児童のいじめ問題の解決のための実践力を育てるために次のような学習過程を組む。なお、本校第6学年の総合的な学習の時間において、歴史、人権、情報、国際交流等の学習を進めている。本実践はその中の人権の領域で実践を進める。

① 解決の方法を考える（総合的な学習の時間等）

いじめ問題の解決の方法を主体的に考えることができるようにするために、ロールプレイやブレインストーミングなどのワークショップを取り入れる。ワークショップで考える課題として次のようなものが考えられる。

- ・いじめを拒否するには
- ・いじめを止めるには
- ・いじめたい気持ちを抑えるには
- ・いじめのない学校にするには

また、朝の学習を活用して、いじめに関する本（児童生徒の作文）の読み聞かせをし、解決の方法について考えを深めることができるようにする。

② 自分たちができることを実践する（総合的な学習の時間等）

いじめ問題の解決のために主体的に取り組むことができるようにするために、ワークショップで考えたことを基に自分たちができることを実践する活動を取り入れる。実践活動としては、次のようなものが考えられる。

- ・元気のない児童に声を掛ける。
- ・されて嫌なことを見付けたら「いけないよ」と教える。
- ・休み時間に様々な学年の児童と一緒に遊ぶ。
- ・いじめにあったときの対処法についての紙芝居を作って、呼び掛ける。
- ・いじめをしないチェックカードを作って、自分の生活を毎日振り返る。

以上の考えを基に作成した学習プログラムを表3

に示す。

2 授業の実際

総社市立維新小学校の第6学年9人（10月は10人）を対象にして平成16年10月27日～11月17日に授業実践を行った。

(1) ユニット1

① 道徳の時間（いじめの事実を考える）

資料として、「いじめをなくすために 第3版」（総社市教育委員会・総社市外二箇村中学校組合教育委員会）に掲載されている作文「ひまわり」を活用した。この資料は、中学生の作文で、身近ないじめに気付くことができずに同級生の大切な命が失われたことについての自分自身への腹立たしさ、情けなさやいじめをなくさなければならないという使命感が描かれている。

授業では、主人公の作文を書くまでの気持ちについて考えるようにした。主人公に対してメッセージを書く活動（表1）に見られように、児童自身がいじめ問題に自分の問題としてかかわっていかうとする意欲がうかがえる。

② 学級活動（いじめの構造を理解する）

四層構造にかかわる絵話（図2）を提示し、いじめの構造について考えるようにした。児童には四層構造を「いじめている人」「いじめられる人」



図2 四層構造にかかわる絵話

「いじめられている人」

「おもしろがる人」「見ている人」と提示した。児童の振り返りシート（表2）から、学習を通して、いじめ問題を解決するためには、特に傍観者の働き掛けなどが大切であることに気付くことができたことがうかがえる。また、別の児童の振り返りシート

表1 主人公への児童のメッセージ(道徳の時間)

もし、身の回りに、いじめられている人がいれば、見ているだけでなく、その人の力になれるような人になりたいです。

表2 児童の振り返りシート(学級活動)

いじめている人やおもしろがる人は、ストレス解消とかで、いじめるのはよくないと思った。見ている人がいじめている人を止められたら、いじめられている人もていこうしやすくなるんじゃないかと思った。見ている人はいじめを止められるといいなと思いました。

表3 小学校高学年におけるいじめ問題に関する学習プログラム(全10時間と日常活動)

学習過程・領域・ねらい	主な学習活動	教師の支援	日常活動	
ユニット1	いじめの事実を考える 道徳の時間(1時間) 「いじめをなくすために」 いじめを許さず、いじめ問題を解決するために自分の問題として考えていこうとする心情を育てる。	○安らぎの木陰の由来を知る。 ○資料「ひまわり」を聞いて話し合う。 ○今までの自分を振り返る。 ○教師の話聞く。	○安らぎの木陰の由来と実際にあつたいじめの事実を紹介し、価値への方向付けを図る。 ○吹き出しに主人公の気持ちを書く作業と話し合いを通して、いじめをなくさなければならないという使命を感じる主人公の気持ちに共感できるようにする。 ○主人公へのメッセージとして、授業で考えたこと、これから取り組みたいことなどを中心に書くように伝える。 ○教師の体験談を交えながら、命を絶対に大切にしなければいけないこと、困ったときは、いつでも相談してほしいことを伝える。	
	いじめの構造を理解する 学級活動(1時間) 「いじめとはどのようなことか考えよう」 いじめの構造について考える学習を通して、いじめ問題を解決するための課題に気づき、自ら取り組んでいこうとする態度を育てる。	○絵話を聞いて、いじめの構造について考える。 ○学習を振り返る。	○絵話の内容について次の観点で、話し合いを進め、四層構造についてとらえることができるようにする。 ・いじめの場面での立場 ・それぞれの立場の思い ・いじめている人がいじめをしやすくなる要因 ・いじめ問題を解決するための課題 ○今日は四層構造のどの人の気持ちが一番近かったかと、本時の学習の感想を振り返りシートに書くことを伝える。	
ユニット2	解決の方法を考える 総合的な学習の時間 「いじめをなくすために自分たちができることから実践しよう」 (第一次) いじめ問題にかかわるワークショップを通して、解決の方法を自ら考え、主体的に判断し、よりよく解決する資質や能力を育てる。	第1時 ○ロールプレイをして感じたことを話し合う。 ・いじめを拒否する。 ・いじめを止める。	○いじめを拒否するロールプレイでは、児童がいじめられている人、T2がいじめている人の役とする。 ○いじめを止めるロールプレイでは、児童が見ている人(止める人)、T1がいじめられている人、T2がいじめている人の役とする。 ○ロールプレイのときは、演じる側、見る側のそれぞれの立場で、感じたことを話し合えるようにし、適切に対応するためのポイントをまとめていく。 ○どうしても言えないときの対応法も児童の考えを基にまとめていく。(相談する、逃げる、助けを呼ぶ、など)	本の読み聞かせ (朝の学習) 「いやと言えたとき」 第6学年道徳副読本/日本標準
		第2時 ○いじめたい気持ちを抑える方法についてのブレインストーミングをする。	○人を傷つけない方法について、できるだけたくさんアイデアを出すように伝える。 ○すぐに行えること、後でゆっくりできることの観点を示し、様々なアイデアが出るようにする。 ○出たアイデアを模造紙に分類して、名前を付ける話し合いを進める。 ○自分ができる方法を学習シートに書くように伝える。	
		第3時 ○いじめのない学校にする方法についてのブレインストーミングをする。	○三つのグループに分け、できるだけたくさんアイデアを出すように伝える。 ○アイデアが出たら、他者のものを批判せずに、模造紙に分類して名前を付けるように伝える。 ○グループごとの発表から、様々なアイデアがあることに気付くことができるようにする。	本の読み聞かせ (朝の学習) 『いじめ』と『笑顔』 平成15年度「人権作文集」/総社市・総社市教育委員会
自分たちができることを実践する 総合的な学習の時間 (第二次) いじめのない学校にするために、今までの学習で身に付けた知識や技能等を生かしながら、主体的に活動に取り組む態度を育て、今後、いじめ問題について自分がどのようにかかわるかを考えることができるようにする。	第1時 第4時 ○いじめのない学校にするために自分たちができる活動の準備をする。	○活動内容を決定する参考となるように、前時のブレインストーミングの結果を提示する。 ○「・・・作戦」などのような名前を考える活動を取り入れ、意欲を持つことができるようにする。	実践活動 (業間の活動、朝の学習)	
	第5時 ○実践したことについて振り返る。	○実践した感想を学習シートに書き、発表するように伝える。 ○児童の一人一人の頑張りをしっかり称揚し、これからも取り組みを継続できるようにする。 ○いじめ問題の学習について考えたことを振り返りシートに書くように伝える。		

(表4) から、四層構造と自分の生活を結び付けて考え、いじめ問題の理解が深まっている様子が見える。

(2) ユニット2

表4 児童の振り返りシート(学級活動)

・私は見ている人にならなくていいので、今度からは、そういう人がいたら、一言、言ってあげようと思います。
・ぼくは、見ている人が一番近いです。今日授業でやっていただけ、やめてあげようと言ったら、こっちもいじめられるときもあるからどうしようか迷います。

① 総合的な学習の時間、朝の学習(解決の方法を考える)

ア 第一次第1時

いじめに対してどのようにして「嫌だ」と言ったり、止めたりすればよいのかについてロールプレイを通して考えるようにした(写真1)^(註)。児童は適切な大きな声で言った方がよいとか、相手の方を見て言った方がよいなどと自分たちの考えを作ることができた。どうしても言えないときは、逃げ

たり、助けを求めたりすることが大切であることを補足した。児童の感想（表5）から、



写真1 ロールプレイの様子

四層構造の学習を基に、いじめを止めた後の友達関係の在り方まで考えを深めることができた様子が見えがえる。

イ 第一次第2時

いじめたい気持ちを抑える方法についてブレーンストーミングを通して考えるようにした。

すぐにできること、後でゆっくりできることの二つの観点でたくさんのアイデアを出すようにした。児童の感想（表6）から、出てきたアイデアを基にして自分ができそうなことをやってみようとする意欲が見えがえる。

ウ 第一次第3時

いじめのない学校にする方法についてブレーンストーミングを通して考えるようにした。児童の感想（表7）から、自分たちの力で、いじめのない学校にするための実践への意欲の高まりが見えがえる。

エ 朝の学習

朝の学習を活用し、本（児童生徒の作文）の読み聞かせを2回実施した。児童の感想（表8）から、嫌なことははっきりと言うことやいじめを止めることの大切さなどについての考えの深まりが見えがえる。

② 総合的な学習の時間、業間の活動、朝の学習（自分たちができることを実践する）

ア 第二次第1時～第4時、業間の活動、朝の学習

第一次のワークショップで考えたことを基に、自分たちができることとして「いじめNO、NO大作戦」という名前を付けて、全校児童の啓発のための実践活動に取り組むことになった。人形劇と紙芝居をするグループと、いじめパトロール隊をするグループの二つのグループで進めた。

人形劇はかばんを持たされる場面での四層構造にかかわる劇で、いじめの場面に遭遇したときの対応の仕方について伝える内容である。この人形劇をビデオに撮影して、第1学年から第5学年までの教室で見てもらい、感想を書いてもらうようにした。

表5 児童の感想(総合的な学習の時間第一次第1時)

・いじめている人を責めて、逆にいじめている人がいじめられている人になるかもしれないので、あまり強く言いたくない。止めた後、いじめていた人と交流を深めていって、みんなが自然に遊べると思う。

表6 児童の感想(総合的な学習の時間第一次第2時)

いろいろな方法があって、特にやりたいと思ったのは、「音楽を聞く」や「ねる」というのをやりたいと思いました。考え始めるといろいろなかんできて、人をいじめないでもストレス解消になるものがたくさんあったので、みんなが人をいじめないで、ストレス解消できたらいいと思いました。

表7 児童の感想(総合的な学習の時間第一次第3時)

いじめをみんなでなくそうとすると、本当になくなるんじゃないかなと思った。もし、いじめられている人に遊んであげたりすると、元気になるかなと思った。

表8 児童の感想(本の読み聞かせ)

・私は、「いや」と言うことは、大切なんだと思った。自分がされていたら自分の思っていることを言えればいいと思った。
・私も見えても、言えなくてこわいことがたくさんありました。でも、言いたけれどこわくて言えませんでした。私は見て見ぬふりをしたら、いじめをしていることになると思うので、これからは、その場で言えるようになりたいと思いました。

紙芝居は、いじめの場面に遭遇したときにどのような行動を取ればよいか考えてもらう内容で、朝の学習を活用して、第3学年～第5学年対象と、第1、第2学年対象の2回行った（写真2）。

いじめパトロール隊は、業間の時間に、困っている友達に声を掛けたり、相談に乗ったりする活動をした。活動の中で、低学年の児童が元気で教室にいるのを見付けると、しっかり話を聞いたり、楽しい話をしたりして、元気に他の友達と遊べるように支援をする姿も見られた。



写真2 紙芝居の様子

イ 第二次第5時

今までの実践活動について振り返った。児童の感想（表9）を見ると、自分たちの活動によって、いじめについて考えてもらえたり、元気のない児童が楽しく遊べるようになったりすることから満足感を得ることができ、これからもできることを続けようとする意欲を持つことができたことが見えがえる。

IV 考察

表9 児童の感想(実践活動)

・いじめの紙しばいやビデオを見て、感想を書いてくれて、みんなよく考えてくれていたのうれしかった。私たちが作った紙しばいとビデオを見て、少しでも、いじめについて真げんに考えてくれる人が増えたらいいなと思いました。
 ・いじめパトロールをやって、楽しく遊んでいる子がいたけど、一人さびしく教室にいた子もいました。でも、話を聞いてあげて、また、遊ぶようになりました。
 ・けっこう、業間に中にいる人もいました。ぼくはそういう人たちをさそって、外で遊ばせたいです。

児童のいじめ問題についての認識の深まりといじめ問題の解決のための実践力の育成について、授業実践前後のいじめについての意識調査（前平成16年10月12日、後平成16年11月17日）、授業実践後の児童の感想（平成16年11月17日）、生活振り返りシート（平成16年11月19日～平成16年12月17日のうち8回）を基に考察する。

1 いじめ問題についての認識の深まりについて

(1) いじめについての意識調査から

「いじめがいけないのは、どうしてだと思いますか」という質問に対する児童の回答を授業実践前後で比較した（表10）。授業実践後は全員の児童が「人の心が傷付く」を挙げている。

(2) 児童の感想から

抽出児Aの感想を表11に示す。A児は、いじめはいじめられている人にも責任があるという考えがよくないことに気付いた。A児にどの学習過程でその気づきがあったかを尋ねると、「自分たちができることを実践する」学習過程の実践活動であると答えた。A児が取り組んだ人形劇と紙芝居は様々ないじめの場面での四層構造とその解決の方法について描かれている。このことから、四層構造やワークショップで学習したことを基に、自分たちの力で作品を構成することで、再度、いじめ問題を見詰め直し、認識が深まったことが分かる。

2 いじめ問題の解決のための実践力の育成について

(1) いじめについての意識調査から

「自分がいじめられたらあなたはどうしますか」と「友達がいじめられていたらあなたはどうしますか」の質問に対する児童の回答を授業実践前後で比較した（表12、表13）。自分がいじめられたとき「解決に向けて努力する」という児童が大幅に増加したことから、多くの児童が自分のいじめ問題について我慢せずに、何らかの行動を取ることの大切さを感じ取ることができたと考えられる。

(2) 児童の感想から

表10 「いじめがいけないのは、どうしてだと思いますか」(複数回答可) (人)

	実践前	実践後
人の心が傷付く	4	9
いじめが広がる	1	2
人を追い込む	2	2
嫌な気持ちになる	2	2
かわいそう	3	1
よくない	1	0
けがをする	1	0
物がなくなる	1	0

(児童の自由記述を基に類型化して集計) N=9

表11 授業実践後のA児の感想

今までは、いじめられている人にも、いじめられる理由があるという考えだったけど、今は、いじめられている人もいじめている人もおたがいに考えていくことが大事という考えになった。

表12 「自分がいじめられたらあなたはどうしますか」(人)

	実践前	実践後
解決に向けて努力する	3	7
状況によって対応が異なる	4	1
何もできない	1	1
いじめ返す	1	0

(児童の選択式、複数回答可を基に類型化して集計) N=9

表13 「友達がいじめられていたらあなたはどうしますか」(人)

	実践前	実践後
解決に向けて努力する	6	7
状況によって対応が異なる	2	2
何もできない	0	0
その友達と二人でいじめ返す	1	0

(児童の選択式、複数回答可を基に類型化して集計) N=9

表14 授業実践後のB児の感想

前の自分はいじめられている人や一人でいるのを見るとほっとくようにしていた。でも、今はほっとくけない。どうしても、話しかけてしまうようになった。
 (「ほっとく」は方言で、「放っておく」の意)

抽出児Bの感想を表14に示す。B児は表12、表13の自分や友達がいじめられたらどうするかについて、事前調査では、「いじめ返す」と回答していた。しかし、事後調査では、どちらも「解決に向けて努力する」に変わっている。B児に表14のような考えにどの学習過程で変わったかを尋ねると、「いじめの事実を考える」学習過程の道徳の学習が自分の考えが変わるきっかけになったと答えた。その後もB児は積極的に学習に取り組み、実践活動では、いじめパトロール隊の一員として、たくさんの児童に声を掛けることができていた。このことから、実践活動をする上でその基盤となるいじめ問題についての認識を深めることが、実践力を高めるためには重要であると考えられる。

(3) 生活振り返りシートから

授業実践後、学習したことが児童の生活の中でどれぐらい実践されているかを見るために、生活振り返りシートを書く活動に取り組んだ(表15)。多くの児童が他の学年の友達を誘って遊ぶことや友達に優

表15 生活振り返りシート (回)

他学年の友達を誘って遊んだ	36
友達に優しくできた	14
いじめについて学習したことを他の人に伝えた	6
いらいらした気持ちを抑えることができた	5
されて嫌なことを断ることができた	4
人の嫌がることをしているのを止めることができた	3

(児童の選択式、自由記述併用、複数回答可を基に類型化して延べ数で集計)

しくすることができている。これらは実践活動で児童が取り組んだもので、児童にとって、取り組みやすい活動であったと考える。また、日ごろの縦割り班活動を中心とした人間関係づくりが基盤になっているとも考えられる。

V 成果と今後の課題

1 成果

成果として、次の三点が挙げられる。

第一に、いじめ問題についての認識の深まりである。考察1から、いじめは人の心を傷付けることや、被害者にも責任があるという考えがよくないことなど、いじめ問題についての認識を深めることができたと言える。また、授業等での児童の感想から、いじめ問題は児童自身が自分の問題としてかかわっていくべき問題であることや、いじめ問題の解決のためには、傍観者の働き掛けが大切であることなどの認識を深めることができたと言える。

第二に、いじめ問題の解決のための実践力の育ちである。考察2から、いじめ問題を解決しようとする意識が高まったり、実践活動として、自分たちのできることに続けて取り組む姿が見られたりするなど、いじめ問題の解決のための実践力を育てることができたと言える。また、児童の実践活動の様子(Ⅲ-2-(2)-②-ア)から、「解決の方法を考える」学習過程のワークショップで考えたことを有効に実践活動に生かすことができたと言える。

第三に、学習プログラムの構成である。本研究では、小学校高学年におけるいじめ問題に関する学習プログラムとして、二つのユニットを構成したが、いじめ問題についての認識が実践活動を支える基盤となったり、実践活動によっていじめ問題についての認識が更に深まったりするなど、それぞれのユニ

ットが相互に学習効果を高めたと言える。

2 今後の課題

今後の課題として、次の三点が挙げられる。

第一に、ワークショップの取り入れ方である。ロールプレイは児童が道徳の学習等で小学校低学年のころから慣れた活動であったが、一人で演じることへの抵抗感も見られた。支援の仕方を工夫したり、他の活動を取り入れたりするなど検討が必要と考える。また、新たに「元気がない友達への声掛けをするには」などのテーマを取り上げることも考えられる。

第二に、いじめたい気持ちを抑える方法の活用である。表15の「いらいらした気持ちを抑えることができた」を選んだ回数の少なさは予想外であった。児童の活用を促していくためには、例えば、アンガーマネジメントの様々な方法を提示し、体験させることによってよさを感じさせ、その中から自分に適した方法を選んで習得させる取り組みが重要だと考えられる。

第三に、学習プログラムを生かす相談体制である。表12、表13の「状況によって対応が異なる」という児童と「何もできない」という児童に、教師や家族に相談ができないのかどうかを尋ねると、「相談することで、他者に広まり、そのことで責められることが心配」「相談は最後の手段」などの回答があった。教師がいじめを発見するためには、児童が安心して自分の思いを語るができる雰囲気をつくること、児童からの何らかのサインを読み取ったり、情報を収集したりすること、参観日等でいじめに関する話題提供を行い、家族でいじめについての話し合いができるようにすることなどの取り組みが重要だと考えられる。

VI おわりに

本実践は人権学習としての実践であるが、学習プログラムを有効にするためには、児童一人一人を大切にす視点からの自立支援や学級や縦割り班での人間関係づくりと一体になって進めていくことが大切であり、今回はその条件が十分に整っていたことが支えとなったことを付記しておく。

(注) いじめ問題にかかわるロールプレイは、児童一人一人の実態を慎重に把握した上で実施する必要がある。本実践においては、対象児童10人について、いじめについての意識調査及び個人面接の結果に加え、相互の人間関係に対する新旧学級担任の見解を総合的に検討した上で実施に踏み切った。